

基 調 講 演

長岡圏域の振興方向と戦略

新潟県長岡地域振興事務所長

大掛 幸夫 先生

只今ご紹介にあずかりました、長岡地域振興事務所長の^{大掛}と申します。どうぞよろしくおねがいします。私はこのようなアカデミックな場所で話をすることは今までないものですからちょっとあがっておりますし、足もガタガタしております。何を言うかわかりませんけれども、一生懸命40分ばかり努めさせていただきたいと思っております。

最初に地域振興事務所の話をしていただきます。今年の3月まで長岡駅東口から約1キロメートルほどの所にある総合庁舎の中に財務事務所がありました事は皆様ご承知の通りです。この事務所では県税の賦課徴収事務の外に地域振興事務も担当しておりましたので、今年度からそれぞれの業務を担当する事務所を独立させまして、地域振興事務所と県税事務所の二つに分けたところでございます。この長岡圏域の地域振興計画の策定のとりまとめをさせていただきました。その概要についてご説明をさせていただきたいと思えます。

この地域振興計画は、長岡圏域の振興方向と長岡圏域をこれからどうしていくのかというようなことをまとめたものでございます。

皆さんのお手元にある「長岡地域振興計画（案）」に基づきましてご説明させていただきます。

新潟県では2001年4月に長期総合計画を策定しました。その中で県土を6つの広域連携圏に分けております。長岡は三条・燕圏域、柏崎圏域とともに中越広域連携圏に含まれており、長岡圏域の具体的な振興方向をとりまとめるというのがこの地域振興計画になっております。具体的に申し上げますと、長岡広域市町村圏の発展のための戦略をどうしていくのか、長岡圏域はこれからどのような方向に向かっていくのか、あるいはまたどのような方向に軸足を置いてやっていくのかということが、この振興計画をまとめるものとなっております。なぜこんな計画を作らなければいけない

のかということから説明を申し上げたいと思います。が、これは様々な要因があるわけですが、やはり県にとっては財政が深刻な状態になっているということです。これは皆さん、ご存じのように国、県を併せて約700兆円近い長期債務があります。そういう中でやはり県としては、優先的あるいは重点的な事業投資をしていかなければいけないというのが県の立場です。

また他の面から言いますと、高齢化社会がスピードアップをしており、産業の面でも、例えば従業者数、製造品出荷額等で長岡圏域も他地域と同様下がっています。このような状況ですからいわゆる地域レベルの改革というのは、待ったなしの状態になっています。そういう意味でこの地域の将来展望と見通しを作っていかなければいけないわけです。県下に14の地域振興事務所がありますが、私どもは長岡圏域を対象としてこのほど地域振興計画をとりまとめたところでございます。

それでは長岡圏域はどういう地域かと申し上げますと、長岡広域市町村圏は13の市町村で構成されております。このエリアには長岡市、小千谷市、見附市、栃尾市、中之島町、越路町、三島町、与板町、和島村、出雲崎町、山古志村、川口町、小国町が入っています。計画期間でございますが、平成15年度から平成22年までの8年間でございます。この間にどういう集中投資をしていくか、どこに軸足を置いていくかということが地域振興計画の概略です。

この地域振興計画を作るにあたって、私どもが一番に考えたもの、考えの元になっていたものが、人口の問題でございます。長岡圏域の人口は、平成12年の国勢調査結果で見ますと37万ちょっとでございます。平成7年よりも減っております。県下のシェアではだいたい15%くらいになります。ある地域における活動は一定の人口の上に成り立っています。というのは人口

は、やはり生産活動のもとになっておりますし、商業関係、サービス業関係では、需要の最大の構成要素になっております。人口が減るということになるとやはり経済活力がダウンします。では、その人口をどう見るかということですが、日本の将来人口推計は2006年をピークにだんだん減っていくであろうと推定されております。長岡圏域といえども確実に減少の一途を辿るであろうと私どもは考えております。その根拠は少子化にあり、一生の間に一人の女性が子供を産むといわれている合計特殊出生率も1.51になっていることです。これは全国および県下の平均よりも若干高いのですが、人口を現状維持するには出生率が2.08必要であると言われておりますので、1.51ではやはり人口は減少していくことになります。それから、高齢化率ですが、高齢化率というのは65歳以上の老年人口の割合ですが、これも平成12年で21%くらいになっております。このような状況を考えますと、長岡圏域でもやっぱり人口は減っていくであろうと思われれます。

それから産業別就業者構成比を見ると長岡圏域は第二次産業が40%くらいあります。これは県平均よりも4%くらい多くなっておりますし、全国平均よりも高くなっております。しかし、製造品出荷額は近年若干減少しており、以前は1兆円を超えていたのですが、最近では9000億円位にまで落ちています。さらに商品販売額も若干減少し、1兆3000億円位になっております。農業粗生産額も現在400億円くらいですが、これも減少傾向になっております。そういう意味で人も減る、産業構造も第二次産業を中心にして、農業、商業も落ちている。こういう状況を前提に長岡圏域を今後どうしていくのかということでもまとめたところです。とは言うもののこの地域には豊かな自然もありますし、交通の要衝でもあります。それから今をときめく米百俵の精神も息づいており、独特な教育風土もあります。そういう意味では長岡圏域の発展ポテンシャルは非常に大きいものがあります。

この長岡圏域をこれからどうしようかということを考えていく中で、一番重要なことは、私どもが安心して住める定住条件と言いますか、住んでいくうえで必要なものは4つあります。それはまず所得の確保ができる場所、働く場があるということです。それから二番目には子供に高等教育を受けさせることができる場所が重要だと思います。そしてやはり働く場があったり、子供を教育できたとしても、都市機能が高度化し、たまには演劇や芝居が見たい、文化施設もある方がいい、

そういうところがないと若い人達は定住をしないんじゃないかとも思われます。それから四番目としては、やはり最新の医療機器、あるいはまた医療技術をどこに住んでいたとしても受けられることです。この四つがなければいけないんじゃないかと思っております。県下では、この四つの条件が揃っているのは、長岡圏域しかないと思っております。そういう意味では長岡の発展ポテンシャルは非常にあるということで、「長岡圏域に求められること」としてこれらのことが書いてございます。つまり長岡圏域というのは新潟県であるとか、あるいはまた中越地域の中核都市として、持続的発展が可能な地域です。長岡が頑張らないと、新潟県の発展はないと思っております。逆にそういう意味で長岡の地域が頑張らなくちゃいけないんだ、そういう地域だと思っております。

次に「明日をささえる、にいがた未来拠点の創造」という資料をご覧ください。長岡の振興方向と目標をにぎわい集うまち、明日をささえるにいがた未来拠点の創造と考え、長岡圏域が新潟県の拠点として、また中越地域のリーディング役、牽引役を果たしていかなければいけない地域だと位置づけました。キーワードは拠点です。この目標を実現するために3つの戦略をとりまとめました。それは、ものづくり、ひとづくり、魅力づくりで、この3つがないと、未来拠点、拠点を持続させることができないと考えております。これからこの3つの拠点についてご説明をさせていただきます。

このものづくり、ひとづくり、魅力づくりの3つのうち、本日は、ものづくりを中心に話をさせていただきます。

ものづくり未来拠点のところをご覧ください。長岡の圏域のものづくりをひも解いていきますと、明治20年代の初めに石油の掘削機械の製造、修理に始まったと言われております。ですからそれ以来、長岡は鉄工の町として県内のリーディング役を果たして参りました。しかし、最近では、中国、台湾を含む地域に価格競争で負けて来だした。産業の空洞化であるとかグローバル化と言われておりますけれども、そういう価格競争にさらされているということでございます。統計をずっと見て参りますと、製造業の事業所数も減っております。さらに、製造品出荷額も減ってきております。そういう意味で今後、若者の定住を図るためにも、今あるものについては一生懸命頑張っていただかないといけないわけですが、次の30年間をひっぱる産業の創

長岡地域振興計画（案） 2002年10月

長岡圏域は、新潟県及び中越広域連携圏の中核都市地域として、また他県の地方都市との地域間競争に負けない地域として持続的に発展することが求められています。

独特の文化や産業の集積、教育機関の立地のポテンシャルを活かして、新しい拠点をづくりを行っています。

魅力 づくり未来拠点

都市機能の高度化と連携による圏域づくり

施策1 都市機能の高度化、地域資源を活かした魅力づくりと
これらをお互いに享受できる仕組みづくり

長岡圏域は、都市機能を持つ中心地域と、豊かな自然を持つ周辺地域が近接共存しており、この特徴を活かし、長岡圏域らしい中心と周辺、都市と農村が融合した一体的なまちづくりをすすめます。

若者の定着に欠かせない都市機能の高度化、情報通信ネットワークの構築を行っています。

- 重点事業**
1. 都市機能の高度化
 2. 都市基盤の整備
 3. 地域資源を活かした魅力づくり
 4. 各地域中心と圏域中心部を接続する道路整備の推進
 5. 情報ネットワークの整備

施策2 快適なまちの仕組みづくり

魅力的なまちは快適なまち。歩いて楽しくなる都市空間・歩行空間の整備や、バリアフリー歩道など、人にやさしいまちづくりを進めます。また、歩道除雪をはじめとする雪対策を推進します。

- 重点事業**
1. ひとに優しいまちづくり
 2. 雪に強いまちづくり

施策3 圏域を超えた連携・交流の仕組みづくり

他圏域等との連携交流は、果の大きな役割です。縄文・良寛など、新潟県を代表する文化や資源を活用した、交流拠点形成を行うと共に、交流の仕組みづくりを積極的に行っていきます。

- 重点事業**
1. 連携・交流拠点の整備と発信、広域観光ネットワークの整備
 2. 広域連携のための道路基盤整備

■魅力ある自然・田園と都市が融合した美しいまち■

にぎれい集うまち 明日をまきえる にいがた未来拠点 の創造

目標を実現するための3つの戦略

もの

づくり未来拠点

技の発信基地の形成

施策1 新技術開発などによるリーディング企業の育成

若者をはじめとする新しい雇用の場の確保など、地域産業の活性化を図るため、産学官連携による新製品・新技術の開発や製品の付加価値化などの事業展開に必要な環境を整備します。

- 重点事業**
1. 長岡圏域産業政策研究会（仮称）の設置
 2. 連携・ネットワーク支援
 3. 新技術開発・既存技術の高度化
 4. 起業支援

施策2 産業基盤整備の推進

新しい産業基盤としての通信ネットワークの構築など、情報基盤整備を促進し情報の受発信機能の充実を目指すと共に、流通基盤としての道路整備などを推進します。

- 重点事業**
1. 情報基盤整備
 2. 流通基盤整備

施策3 農業生産・流通体制の強化

21世紀の農業の取り組みとして新しい農業技術の開発や、環境にやさしい農業生産体制・流通体制づくりを推進します。

- 重点事業**
1. 生産・加工など総合農業技術の開発と活用
 2. 新しい生産・流通体制づくりの推進

■技がひかり活力が感じられるまち■

ひと

づくり未来拠点

時代を拓く人材の育成

施策1 多様な個性と能力を持った人材の育成

米百俵の精神などの独特な教育風土と、特徴ある大学・文化施設の立地を活かして、明日の新潟県、日本を代表する時代を拓く人材を育成します。

- 重点事業**
1. 時代を拓く子どもたちの育成
 2. 多様な自然を活かした教育環境の場の整備
 3. 地域リーダーの育成

施策2 地域の人材活用のための仕組みづくり

地域のために積極的に活動する人材を育成し、地域で活かす仕組みを構築することで、地域住民の社会活動参加を支援し、内面からも自立した圏域づくりを目指します。

- 重点事業**
1. 社会活動参加の仕組みづくり
 2. 地域リーダーのネットワーク化

■人が輝くいきいきとしたまち■

長岡地域振興調整会議

（事務局 長岡地域振興事務所 地域振興課）

〒940-8567 長岡市四郎丸町173-2

電話 0258-38-2507 FAX 0258-38-2670

電子メール t02107a2@mail.pref.niigata.jp

ホームページ <http://www.pref.niigata.jp/chikishinko/nagaoka/>

造が是非必要です。今確かに、数社、数社といった語弊があるかもしれませんが、元気な企業はございます。従来は長岡は鉄工の町として賑わっていたわけですが、今ほど申し上げましたように、価格競争にさらされて随分工作機械あたりも苦しくなってきました。そういう意味で次の30年をひっぱる産業を作っていくことが大事と考えて、ものづくりの未来拠点になることを提案しました。その施策の一つは技術開発などによってリーディング企業を育成していく必要があるということです。雇用の場の確保と若者の定住を図るためには、人々が所得を得る場や、生活の場を確保していくことが大事になっていくわけです。しかし、今この産地産業に働く人達も減ってきているわけですから、新たな分野を作っておかないと人口や生産高を維持したり、発展させることができないわけです。従来ですと、企業誘致をしてこれらの減った分をカバーしていたわけです。今までですと他県との競争の中での企業誘致だったわけですが、他の県との競争だけでなく、一部では外国との競争にまでさらされてきています。そういう中で、企業誘致では発展を進めることはできないと思われます。そうしますと、減っていく分についてはどのように対応していくかということになろうかと思いますが、それは、現在の産地産業の原点を大切にしながら、一方で、高賃金、高コストの環境下を認識した上で、新製品開発、新技術開発を行っていくしかないと思われます。非効率な産業の部分を効率の良い部分に誘導をしていく、そっちにシフトをしていかざるを得ないじゃないかと思っています。幸いにも長岡圏域には切削加工であるとか表面処理であるとか、あるいはまた鋳物であるとか、要するに広い裾野がございますので、潜在能力としてはものすごく高いものがあるわけです。また、地域では頑張っている企業もあります。また、大学もありますし、試験研究機関もあります。それから優秀な技術者、優秀な機械等もありますので、現在自分の持っている保有技術や保有設備で新しい効率の良い分野に移っていくことが重要と思われます。移っていく時には技術開発であるとか、デザイン開発であるとか、そういうものによって工夫しながらものづくりを大事にしていかなければなりません。そういう意味で技術開発などによるリーディング企業の育成を一番目に掲げました。これを具現化してくためにまず「長岡圏域の産業政策研究会」を立ち上げましょうと提案をしているわけです。この産業政策研究会を設置し、立ち上げてこの中で今

私が申し上げましたような新製品であるとか、新技術の開発によって付加価値の高い事業展開をしていく、そういう原動力になる研究会を作っていこうということです。今後も長岡がものづくりの拠点として持続的に発展していくためにはどうしたらいいのか、この研究会の中で考えていきましょう。従来から、商工関係の施策については県の施策がたくさんありました。それから試験研究機関もそれぞれ独自にやっておりますし、もちろん民間業界団体もたくさんあります。それから産学官連携の事業もたくさんやってきましたけれども、みんな単発でやっていて、産地としてどうやっていったらいいのか戦略的なものがないと考えまして、私どもの方で提唱者になります。とりあえず、立ち上げは私どもが中心になって立ち上げますが、最終的には民間団体、あるいは業界団体、そういうところで自ら産地の問題として考えていただきたい。そのきっかけのところに提唱させていただきました。大学、試験研究機関、民間業界団体等で構成する研究会を立ち上げまして、地域ならではの発展策について調査研究をやっていきましょう。この調査研究は、どんなことをやっていくのかということですが、今は頑張っている企業もあり、地域に体力のあるうちに次の30年間を引っばっていく新しいリーディング産業は何か、これを中心にして考えていくべきだと思います。では具体的にどんなものがあるのかという話になりますが、輸出志向の強い分野であるとか、量産的な産業についてはやはりこれから地域をリードする、あるいは支えることはちょっと不可能と考え、少量の特注生産型でユーザーのニーズに合う機器の開発であるとか、新製品、新技術の開発的なものの研究もこの中に入ってくると思います。その他に企業支援であるとか創業支援であるとか、あるいは技術開発、新商品開発的なものはどうしたらいいのか、この厳しい状況を乗り切るための緊急受注対策みたいなものはどうしたらいいのか、異業種の交流によってある共同受注グループ的なものをどうやって立ち上げたらいいのか、またそこで何をつくったらいいのか、産学官連携による事業の創出、研究の交流事業、優れた大学の研究者の支援や、コーディネーターの発掘であるとかを考えていく必要があると思います。これらの例を挙げさせていただきましたが、それはちょっとピンボケですよと言われる部分もあるかと思いますが、こんなことを考える産業政策研究会という組織を立ち上げて、長岡圏域、業界のみなさんで考えて下さいということです。これはまだ業

界団体にも話をしていないんですが、例えばどこか受け皿的なところ、例を挙げれば商工会議所さんであるとか、鉄工組合さんであるとかいろんな公的な団体と一緒にになりながら、子どもがとりあえず種を蒔きますので、最終的にはバトンをそういうところで受け取っていただき、業界として考えていただきたいと思っています。

その他の重点事業として連携ネットワーク支援、新技術開発、起業支援をあげておりますが、これらについては既存の制度がたくさんございますので、そういうものでリーディング企業の育成をやっていききたいと考えております。

それから二番目の産業基盤整備の推進ですが、これから地域が発展するためには、情報基盤が完備している事が重要であると思います。産業の高度化であるとか、都市基盤の高度化、そういうものにはやはり情報基盤がしっかりしている必要があります。情報基盤のないところにはIT産業の立地は不可能だと思います。IT産業はある意味では労働集約的な仕事が多いので、雇用の場を確保したり、若者の定住をすすめることになります。そういう意味で圏域内のリーディング産業になりうるのはIT産業あたりと考えております。情報基盤整備をどのようにやっていったらいいのかというようなことの研究も兼ねながら、研究会も立ち上げたいと思います。

次に新潟県の農業についてであります。日本の農業は私有財産制の家族労働によって成り立っていると言われております。本県は日本の食料供給基地としての役割を担っていることから、今後とも他の地域に勝てる農業生産体制を早急に作り上げていく必要があります。具体的には農家外からも後継者を確保するなど多様な農業後継者を育成して行くことです。また農業生産にソフトを付加するなどして農業関連の新産業を創設するには好適地になっています。これが実現されるならば、農業も新しい雇用の吸収の場に必ずなりますので、農業分野についても産業政策研究会の中で考えて行きます。

ものづくりの話ばかりを申し上げましたが、ひとつづきについて若干申し上げたいと思います。この点の基本は時代を拓く人材の育成です。長岡圏域は独特な教育風土をもった地域であり、かつ、恵まれた教育環境がありますので、将来を担う多様な個性と高い能力を持った時代を拓く子供達を育てる教育の拠点になります。具体的には、米百俵の精神が息づいているこの

長岡だからこそ、これからの子供の考える力を伸ばしたり、健やかに育つための環境づくりをしていく必要があると考えています。私は個人的には、「教育をしたかったら長岡へ来い！」というくらいの気持ちで、長岡はやっていく必要があると思っています。つまり、教育の町、長岡です。長岡というのは長岡圏域を含んでいるわけですが、そういうマチにしていく必要があると思っています。従来ですと、学歴の高い人が優良な企業に入って、年齢を重ねる毎により高い富と地位を得るというような年功序列の制度でした。しかしこれからは崩れていく。企業はこれからどういう企業戦略をとるか、私にはよくわかりませんが、確実に時代のトレンドは能力主義になっています。そういう時代は専門的な分野を履修した人、専門の技術を持っている人達が重要になっていくと思われますので、時代の流れを読み取れるような教育環境を作ることが大事と思っています。そういう意味で多様な個性と能力を持った人達の育成、あるいはまた地域の人材活用のための仕組みづくりが必要と思い、記載させていただきました。また、地域住民の社会参加もこれからは必要でしょうし、行政、企業に加え、NPO関係も大事だと思います。従って、これらの育成をしながら人材の活用を図っていく必要があると思っています。

さらに、若い人達が定住し、子供の教育ができるような環境になったとしても、都市機能が高度化していく必要もあります。魅力づくりという意味で都市機能の高度化、あるいはまた地域資源を生かした魅力あるまちづくりをやっていく必要があります。すなわち、都市機能が充実し、文化施設の整った風格のある、品格のある、そういう地域にしていく必要があると思っています。長岡も今まで先人が頑張ってくれていたわけですが、ややもすると、新潟にちょっと水をあけられ出してきたという気もします。私自身、この地域に勤めている者ですから、ちょっと言いにくいわけですが、そんな感じもしないわけでもございません。そこで、都市機能を高度化し、若い人達が働く、働きやすい場所にしていくためには魅力と拠点性のある長岡らしい都市の構造であるとか、都市のあり方、圏域に必要な都市施設をどうしていくのか、そういうものも研究をしながらハード面の整備もしていく必要があると思っています。そういう意味で都市基盤の整備も従来コツコツやってきてはおりますが財源が限られている今、集中投資をしていく必要があります。その他に、快適な街づくりをしていくためには、高齢

化の視点が是非必要です。これからはやはり核家族化と少子化とそれから先ほど申し上げたように高齢化が進んでおりますので、日常生活の相当部分を公共部分が受けざるを得なくなってくると思われます。公共部分が高齢者サービスを提供する場合でも効率化をしなければなりません。行政といえどもスケールメリットを追究せざるを得なくなります。一方で地価も下がっており、高齢者も都市に集中しやすくなりますので、高齢者の公共施設的なものを都市部に集めることが可能になると私は思っております。そういう意味で利便性を求めて来る高齢者の対応も迫られるわけですので、例えば道路関係につきまして自家用車を持たない人達のための街づくり、人に優しい街づくり、歩道のバリアフリー化等を進めていく必要があります。長岡圏域はやはり雪国でございますので、雪に強い街づくりをやっていかなければなりません。それからこの長岡圏域というのは、私が何回も申し上げましたように他圏域の拠点でもございます。幸いにして、交通インフラも整備されております。高速道路、一般の鉄道、それから新幹線と、いろんな交通道路、高速体系の基点といえますか結節点になっておりますので、この圏域内だけではなくて、新潟県内、あるいはまた他県との広域連携、広域ネットワークのキーポイントであるためのハード面の整備も必要と考えております。そんな意味でこれ3つが揃わないと長岡圏域の持続的な発展はないと思っております。今後の地域のことを考えると、いろんな難しい面がたくさんあります。これは

長岡圏域だけではなくて新潟県全体の話ですが、いわゆる「雪道あとから」ということで他人についていくことが安心だと考えていました。しかし今後は、もう一歩前に出て地域の皆さんが自分の問題として考えていく、そういうものに私どもはこれから助成なり援助なりをしていく時代と考えております。以上で長岡圏域の振興方向と戦略についての説明を終わりにさせていただきます。ちょっと長くなりましたし、生意気なことも申し上げましたけれども、つたない説明をお聞きいただきましてありがとうございました。

司会：大掛様どうもありがとうございます。長岡の発展方向として3つの戦略をご提示いただきまして、非常に有意義なご報告でございました。

続きまして二番目の講演といたしまして、マックス・ゼン取締役でFMながおかパーソナリティの丸山結香様より、指導型人材育成の限界—新しい意識改革手法コーチング—というタイトルでご講演いただきます。丸山さんにつきましては、改めて私が申し上げるまでもございせんけれども、アメリカでそしてまた日本に戻られてもコーチングという手法を取り上げられまして、ご活躍でございます。そして、よくご存じだと思いますが、FMながおかの人気番組「スタジオに遊びにきませんか」のパーソナリティでもあられます。お聞きになってる方も多いでしょうし、お出になった方もおられると思います。それでは丸山様、よろしく願いいたします。

指導型人材育成の限界 —新しい意識改革手法コーチング—

マックス・ゼン取締役／FMながおかパーソナリティ

丸山 結香 先生

丸山：みなさんこんにちは。只今ご紹介にあずかりましたマックス・ゼン取締役の丸山結香、そしてもう一つの顔はFMながおかのパーソナリティです。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

今、この壇上からぐるーっと見渡すと、「あらっ、懐かしいわ」という方が随分いらっしゃいます。かれこれ私のゲストコーナーのゲストも1,300、1,400人近いでしょうか、たくさんの皆さんにいただきました。これからお話する、私が勉強してきたコーチン

グというものが随分このゲストとのトークの役に立っているのかなって最近思えます。その辺も合わせて今日はお話をできればと思います。

実は私、地元長岡ではFMながおかのパーソナリティとして番組を持たせていただいて皆様のお耳にかかっておりますが、かれこれ10年以上も前からコーチング、これは簡単に言いますとコミュニケーションの手法なんです、このコーチングコーチとしても仕事をしております。自己紹介すると、私はアメリカに留学